

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 29 年 8 月 21 日発行

第 14 号

編集発行 鈴木史良

「校歌に謳われていること

—— 2学期も元気よく大きな声で校歌を歌おう！ ——

今日から2学期がスタート。夏休みにはたくさんの思い出ができたことでしょう。今学期は気候も涼しく、学習が充実する時です。自分を高められる学期になるよう、励んでいきましょう。

＜始業式の校長の言葉＞より

1学期終業式では2人の友達とお別れしましたが、2学期始業式には、3人の新しい友達を迎えました。小学部1年、R・Nさん、中学部1年、S・Hさん、同3年、M・Hさんです。日本にある学校なら、多くの子どもたちは小学校1年生に入学して、6年生、または中学3年生を終えて卒業していきます。しかし、海外の日本人学校の友達の多くは、親の仕事の関係で急にやってきて、急に去っていきます。子どもたちにとって、慣れ親しんだ友達との

別れは寂しいことに違いないでしょうが、お別れ会での最後の別れを、けなげに精一杯明るく祝ってあげている様子を見るたびに、私は心うたれます。今自分が友を送っていても、いつかきっと自分がこの学校を去る番がくる、そのことをみんな一人ひとりが心の中で感じているのではないのでしょうか。そんな気持ちがチューリッヒ日本人学校校歌の中からも読み取れるような気がしてなりません。

私が注目したのは、校歌3番にある「日本のぼくらは ここにいる」という部分です。一人ひとりの子どもたちはそれぞれの理由で、今、異国であるスイスに暮らしています。異国で暮らす良さや不便さ（好き嫌い）もあるでしょうが、その事実を自分自身でしっかりと受けとめよう、という強い意思がこの歌詞に感じられるのです。「ここにいる」とは、「ここで生きていく、成長していく」という意味だと受け取れます。けっして「ここに連れてこられた」という受け身な態度ではないでしょう。現実を前向きに受けとめられる力は、海外で暮らす子どもたちが培う強さにつながっているように思います。いつこの国を去るかかわからないけれど、後ろ向きな気持ちで毎日過ごすより、この校歌が謳っているように、プラス思考で学校の仲間たちやスイスや世界の友と手をつなぎ合っていた方が100倍も楽しい！ この小さな日本人学校にたまたま編入学し、期間も限られているかもしれませんが、人と人との出会いを大切に作る心をもつ人になってほしいと思います。お互いにプラス言葉で声を掛け合うと、誰もが幸せな気持ちになりますね。この学校は、みんなが心を合わせて学び合い、みんなの声がこだまする学校です。一人ひとりの心配事を仲間たちや先生がたが思いやってくれる学校でもあります。そんなことをこの校歌が私たちに教えてくれています。



終業式で校歌を元気いっぱい歌う子どもたち

30周年記念式典演目変更のお知らせ

11月11日（土）に開催される30周年記念式典において、全日制の児童生徒は補習校の児童生徒（希望者）とともに、「空はつながっている」を合唱する予定でした。しかしながら、第1回学校評価、説明会等でのさまざまなご意見を鑑み、最終的に学校判断として、他の演目に変更することにいたしました。演目につきましては、後日お知らせいたします。児童生徒、並びに保護者の皆様のご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。なお、合唱「空はつながっている」は当日、補習校の演目として歌われます。

校舎1階正面入り口、2階入り口扉等の強靱化工事終わる

大使館の指導による日本人学校強靱化対策に基づき、学校の出入り口扉や窓ガラスの強靱化工事が夏季休業中におこなわれました。新しい扉は強化ガラス製で、これまでの扉よりも強度が高められました。教室、廊下の窓ガラスにはすべて飛散防止フィルムが貼られました。非常階段につながる205教室の非常口は防弾ガラスが設置されます。より安全な校舎になりましたが、いざという時に“自分の身は自分で守る”ための適切な行動がとれなければ、設備が整ったといっても何の意味もありません。そのためにも、避難訓練で習得したことを日頃から意識した行動を心掛けたいものです。出入り口扉の暗唱番号は4けた数字で変わりません。2学期になり、新しい数字になりますので、職員にご確認ください。



強化ガラスとなった新しい玄関ドア

8月の主要予定

ホームページでの公開はしてありません。ご了承ください。